作成日：令和7年11月17日
作成者：静岡市上下水道局
下水道部下水道建設課

仮設材賃料の計算例

Ⅰ 設計条件

●数量
開削工事　管種VU200、BH規格0.45BH
A路線：平均掘削深　1.30m　　下水道区間延長L=10m
B路線：平均掘削深　1.60m　　下水道区間延長L=20m
C路線：平均掘削深　1.60m　　下水道区間延長L=5m

●単価（技術政策課公開単価）
下記単価は参考値です。単価は当市技術政策課公開単価です。単価は毎年度変更します。
単価は技術政策課ホームページでご確認下さい。
アルミ矢板購入価格（新品）L=1.5m　11,300円
アルミ矢板購入価格（新品）L=2.0m　15,100円

●単価（物価版資料）
下記単価は参考値です。単価は物価版資料(建設物価2025.10月号、積算資料2025.10月号）を参考にしています。
アルミ矢板L=1.5mの賃料(枚/日)　28円
アルミ矢板L=1.5mの整備費(枚)　410円
アルミ矢板L=2.0mの賃料(枚/日)　38円
アルミ矢板L=2.0mの整備費(枚)　480円
支保工賃料
アルミ製腹起し（110～120*120～130*4000）「物価版資料平均価格」
水圧式サポート(A) 590～900　「物価版資料平均価格」
水圧ポンプ　「物価版資料平均価格」
支保工基本料
アルミ製腹起し（110～120*120～130*4000）「物価版資料平均価格」
水圧式サポート(A)590～900　「物価版資料平均価格」
水圧ポンプ　「物価版資料平均価格」　とする。

Ⅱ 供用日の計算

※ 日当たり施工量等は、国土交通省発行の土木工事積算基準書及び日本下水道協会発行の下水道用設計標準歩掛表を参考にしています。なお、下記の日当たり施工量は参考値です。
A路線、B路線、C路線の路線ごと計算する。
ここではA路線のみ計算例を提示する。
30mあたりの施工日数を計算。

1舗装切断工
舗装切断延長　施工延長×2本
30m×2本=60m
所要日数　施工量÷日当たり施工量
60m÷203m/日=0.296日(少数第4位四捨五入)　・・・①

2舗装取り壊し工
取り壊し面積　施工延長×掘削幅
30m×0.85m=25.5m2
所要日数　施工量÷日当たり施工量
25.5m2÷484m2/日=0.053日(少数第4位四捨五入)　・・・②

3掘削工
掘削量　施工延長×掘削幅×（平均掘削深）
30m×0.85m×(1.30-0.05)m=31.875m3
所要日数　施工量÷日当たり施工量
31.875m3÷74.0m3/日=0.431日(少数第4位四捨五入)　・・・③

5矢板建込工
所要日数　施工量÷日当たり施工量
30m÷62.5m/日=0.480日(少数第4位四捨五入)　・・・④

6支保設置工
所要日数　施工量÷日当たり施工量
30m÷166.7m/日=0.180日(少数第4位四捨五入)　・・・⑤

7管布設工
所要日数　施工量÷日当たり施工量
30m÷45.5m/日=0.659日(少数第4位四捨五入)　・・・⑥

8砂基礎工
管下10cmの砂の量　施工延長×掘削幅×高さ(10cm)
30m×0.85m×0.10m=2.55m3
所要日数　施工量÷日当たり施工量
2.55m3÷33m3/日=0.077日(少数第4位四捨五入)　・・・⑦

管上の砂の量　30m×(0.85m×0.316m-0.0366m2)=6.96m3

所要日数　施工量÷日当たり施工量
6.96m3÷105m3/日=0.066日(少数第4位四捨五入)　・・・⑧

9埋戻し工(路床・路体)
路床・路体の量　30m×0.85m×0.584m=14.89m3
所要日数　施工量÷日当たり施工量
14.89m3÷33m3/日=0.451日(少数第4位四捨五入)　・・・⑨

10支保撤去工
所要日数　施工量÷日当たり施工量
30m÷200.0m/日=0.150日(少数第4位四捨五入)　・・・⑩

11アルミ矢板撤去工
所要日数　施工量÷日当たり施工量
30m÷142.9m/日=0.210日(少数第4位四捨五入)　・・・⑪

12路盤工(上層・下層)　施工延長×掘削幅×路盤厚(26cm)
30m×0.85m×0.26m=6.63m3
所要日数　施工量÷日当たり施工量
6.63m3÷33.0m3/日=0.201日(少数第4位四捨五入)　・・・⑫

13仮舗装工
仮舗装面積　施工延長×掘削幅
30m×0.85m=25.5m2
所要日数　施工量÷日当たり施工量
25.5m2÷250.0m2/日=0.102日(少数第4位四捨五入)　・・・⑬

実日進量　30m÷所要日数計
30m/(①+②+③+④+⑤+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬)=　11.746m/日
30m/(⑥+⑦+⑧)=　37.406m/日

実日数　施工延長÷実日進量
(10m÷37.406)+(10m÷11.746)=　1.12 ≒1日(少数点以下四捨五入)

供用日数　実日数×(1+雨休率)
1日×(1+0.8)=1.8日≒2日(少数点以下四捨五入)
※ 雨休率(不稼働率)は技術政策課が公開しています。

よってA路線の供用日数:2日
同様の計算をB路線、C路線で行うと、B路線:4日、C路線:2日　となる。
なお、B路線及びC路線での供用日数の計算は省略する。

Ⅲ土留材賃料計算

矢板長さ1.50m
(掘削深 ～1.30m)

施工延長　10.00m
供用日　2.0日
持込長　施工延長÷実日数
10.0m÷1日　10m
転用回数　施工延長÷持込長
10.00m÷10.0m≒1.0(四捨五入)　1.0回
必要枚数　持込長÷アルミ矢板の幅
(10m÷0.333m)≒31(切り上げ)
31×2(両側)　62枚
賃料額　アルミ矢板購入価格×必要枚数
11,300円×62枚　700,600円
供用日×アルミ矢板賃料×必要枚数＋アルミ矢板整備費×必要枚数×(転用回数+1)÷2
2.0日×28円×62枚+410円×62枚×(1回+1)÷2　28,892円

700,600円＞28,892円　28,892円 を採用　・・・⑭

矢板長さ2.00m
（掘削深 1.31m～1.80m）

施工延長	20.00+5.00	25.00m
供用日	4+2	6日
持込長（B路線）	施工延長÷実日数	
	20.00÷2	10m
持込長（C路線）	施工延長÷実日数	
	5.00÷1	5m
持込長面積	施工延長×持込長	
	20.00×10+5.00×5.0	225.00㎡
持込長	持込長面積÷施工延長	
	225.00㎡÷25.00m	9.0m
転用回数	施工延長÷持込長	
	25.00m÷9.0m≒2.8（四捨五入）	3回
必要枚数	持込長÷アルミ矢板の幅	
	(9.0m÷0.333m)≒28（切り上げ）	
	28×2（両側）	56枚
賃料額	アルミ矢板購入価格×必要枚数	
	15,100円×56枚	845,600 円
	供用日×アルミ矢板賃料×必要枚数＋アルミ矢板整備費×必要枚数×（転用回数+1）÷2	
	6日×38円×56枚+480円×56枚×（3回+1）÷2	66,528 円
	845,600円＞66,528円	66,528円 を採用 ・・・⑮

Ⅳ支保工賃料

支保工1段

施工延長	10.00+20.00+5.00	35.00m
持込長面積	施工延長×持込長	
	10.00×10.0+20.00×10.0+5.00×5.0	325.00㎡
持込長	持込長面積÷施工延長	
	325.00㎡÷35.00m	9.3m
供用日	2+4+2	8日
	持込長÷4m×2本（支保材必要本数4mあたり2本）（少数点以下切り上げ）	
アルミ製腹起こし　持込長当り本数	9.3m÷4m×2本	5本
水圧式サポート(A)　持込長当り本数	9.3m÷4m×2本	5本
	供用日×賃料×持込長当り本数+基本料×持込長当り本数	
アルミ製腹起こし　賃料額	8日×「物価版資料平均価格」×5本+「物価版資料平均価格」×5本	・・・⑯
水圧式サポート(A)　賃料額	8日×「物価版資料平均価格」×5本+「物価版資料平均価格」×5本	・・・⑰
水圧ポンプ	供用日×賃料+基本料	
	8日×「物価版資料平均価格」+「物価版資料平均価格」	・・・⑱

賃料

土留材賃料計（⑭+⑮）	28,892円+66,528円	95,420 円
支保工賃料計（⑯+⑰+⑱）	⑯+⑰+⑱	

となる。